

算命学中庸

【初年】 47回目

47回目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図三分法】

【初年】 47回目 【人体図三分法】 01

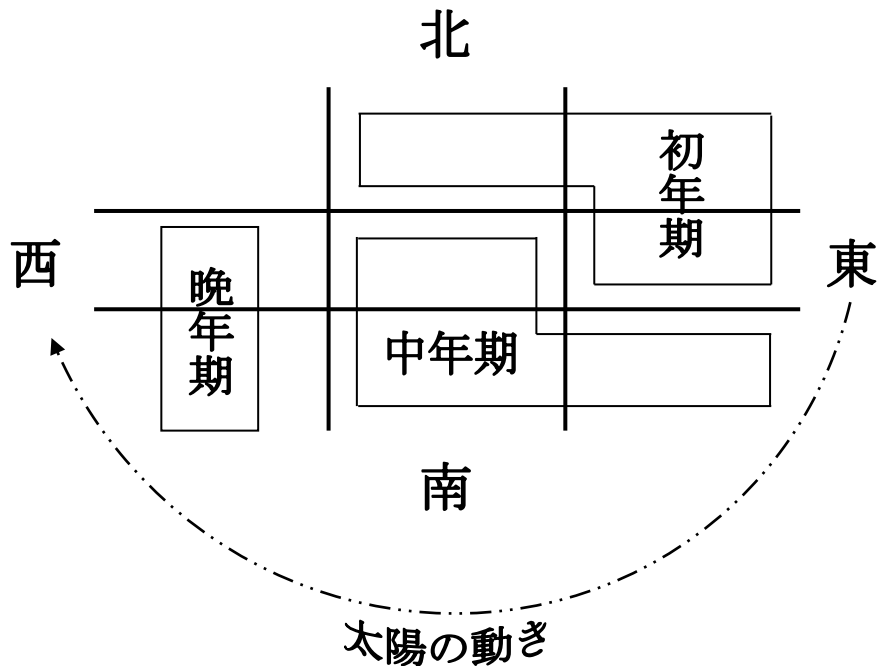
□ 人体図三分法（じんたいずさんぶんほう）

人体図三分法は、人生を大きく三つの時代に分割して占う技法です。

しょねんき 「初年期」 ちゅうねんき 「中年期」 ばんねんき 「晩年期」 の三つです。

一生を大きく三つの時代に分けて占う技法 ⇒ **三分法**

宿命（1）三分法



人間の一生を **初年期** **中年期** **晩年期** の3つに分けて、
「Aさんの初年期はこういった特徴がある」とか、
「Aさんの中年期はこのような生き方^{きけつ}に変わってくる」とか
「Aさんの晩年期はどのような帰結^{きけつ}なのか……」それらの
^{じしょう}事象を観てゆく技法です。

参考：事象〔経験的に認知できる事実や現象。さまざまことの成り行き〕

^{じんたいず}人体図は「東西南北」の方角が決まっています。
上は北、下は南、向かって右側が東、左が西です。

東西南北の方角に太陽のうごきを当てはめる。という考え方は前にも出てきました。

太陽は東から昇って、南を通過して、西へ沈みます。

人体図は自然界での太陽のうごきに則^{そく}して模倣^{もほう}したのです。

太陽は東から昇って来ますから、まずは東の空が明るくなります。

お昼になると太陽は南の方へ移動しますから、南の空が明るくなります。

夕方になると、西へ移動しますから、西の空が明るくなって来ます。

人体図は自然界の事象をもとに、3つの場所で区切りました。それは「生^{せい}・旺^{おう}・死^し」という考え方です。

参考：則する〔ある事柄を基準として、それに従う〕

参考：模倣〔自分で創り出すのではなく、すでにあるものをまね習うこと〕

三分法 は人体図を「初年・中年・晩年」に分けてあります。

初年期は（北と東）がまとまっています。

中年期は（東と南）に区切りができています。

晩年期は（南と西）がまとまっています。

なぜ3つに区切られているのか、そのことは陰占宿命に理由があります。いずれ学びます。そこで理解できます。

「太陽は東から昇り、南を通過して、西へ沈む」という軌道きどうに沿った自然界その姿があります。

その動きに「初年」「中年」「晩年」という人間の人生を当てはめて考えてゆくのが **人体図三分法** です。

「初年」「中年」「晩年」これら3つの時代の場所は、人体図のなかで決まっています。

この時代を、順番に「天区分てんくぶん」「人区分じんくぶん」「地区分ちくぶん」と呼称する場合もあります。

初年期（天区分）

中年期（人区分）

晩年期（地区分）

となるのですが、「初年期しょねんき」「中年期ちゅうねんき」「晩年期ばんねんき」と呼称するのが圧倒的に多いのです。

人体図には「初年期」「中年期」「晩年期」の場所があるということ覚えてください。

「初年期」というのは……。

〔20歳～25歳位〕といえないこともないのですが、この区分の〔年齢〕は、あくまで目安に過ぎません。算命学で考えている「初年期」は「社会に出るまで」というのが基本です。

2022(令和4)4月から「^{せいねんねんれい}成年年齢」は〔18歳〕になりました。

〔18歳位〕までが初年期なのでは——と思う人もおられますが「社会に出るまで」これが本来の基準です。

^{いま}現在は大学に進学する人は多いです。大学を卒業して就職するとしたら、22歳か23歳位になっています。

大学院に行けばもっと年齢は上がります。

個々に異なりますが、一浪・二浪とかすれば、当然、年齢は上がります。

このように年齢は人によって個人差があるわけです。

大学を卒業して、社会に出たとすれば〔22～23歳位〕までが、その人の「初年期」と考えます。

あるいは、高校を卒業して、すぐ社会に出たというのであれば、その人は高校を卒業して社会に出るまでが「初年期」です。社会へでたら「中年期」になります。

このように個人差があることを、前提に考えていただきたいのです。

社会に踏み出す前までは「初年期」といいましたが、このことについては、結婚も考慮してください。

高等学校あるいは大学を卒業して、すぐに結婚したとすれば、『私は1度も社会に出ていません』と言っても結婚すれば、社会へ出たのとおなじと考えています。

昔は〔15歳・16歳〕でお嫁に行くのが当たり前という時代もあったわけです。〔15や16歳〕でお嫁に行く前までが「初年期」で、お嫁にいったら「中年期」です。

㊦ 余談ですが「明治天皇」を考えます。

明治天皇 1952-11-3 生です。^{しょうけんこうたいごう} 昭憲皇太后 1949-5-9 生です。

明治天皇の父親は孝明天皇^{こうめいてんのう}（江戸時代最後の天皇）です。

孝明天皇〔21歳〕 母の中山^{よしこ}慶子〔16歳〕のとき、明治天皇が生まれています。

明治天皇は〔16歳〕のとき、^{いちじょうはるこ}一条美子〔3歳年上〕と結婚しています。一条美子は明治天皇の正室^{しょうけんこうたいごう}（昭憲皇太后）です。

明治天皇と昭憲皇太后のあいだに子供は生まれていません。

☞ 話しをもどします。

男子も〔15歳・16歳〕で奉公に出るのが当たり前の時代もありました。その時代であれば〔15歳・16歳位〕までが「初年期」ということになるわけです。

このようなことからして、個人差があるのは当然ですし、時代によって年齢設定を変更しなければいけないはずです。

「中年期」～「晩年期」というのは――。

「初年期」が終わって、社会に出て〔50歳代〕までを「中年期」と考えています。

50歳代までということで、60歳位までを「中年期」と考えてもよいわけです。

社会に出て、社会から退く^{しりぞ}まで、あるいは、第一線から退くまでが「中年期」です。

サラリーマンで〔60歳〕が定年退職だとすれば、その〔60歳〕までが「中年期」と考えてよいのです。

〔昨今は定年延長の議論もあるようです〕

これもかなり個人差があります。

『私は70歳ですけど、まだ第一線ですよ』という人もおられますから、個々の状況に即^{そく}して考慮します。

主婦とか女性の場合は——夫が引退して、隠居生活のような生活に入ったら、その主婦の女性がまだ〔50代〕であっても「中年期」は終わったと考えます。

しかし、その女性が夫とは別に……社会で頑張っていれば、その女性を「中年期」と見なしてよいのです。その女性の生き方によります。

自営業は定年がなく、何歳になっても、現役で仕事を続けている人もおられます。たとえそうであっても、子供とか、あるいは後継者に主たる仕事を譲^{ゆず}っていたら、それは第一線から退^{しりぞ}いたと判断します。

名目上は社長であり続けたとしても、実質的に子供に^{おも}主な仕事を任せていけば、それは「晩年期」に入っていると考えてください。

さまざまな事例がありますので、どのように考えたらよいのか……ということがあると思います。 ➡

〔たとえば〕仕事を一代限りで譲ろうと思っ^ていてもその人物がい^ません。そこで仕方なく第一戦で働^き続^けていても、その働^き方は若くてバリバリや^っていた頃とは違^っているはず^です。

〔たとえば〕若い頃は、朝8時から仕事^していたのに、年齢的に無理^が利^かない^ので、9時から仕事^を始^めて^いるかも知^れませ^ん。あるいは体力^に合^わせて、仕事^量を減^らしているとい^うこと^もあ^るで^しょう。

働^き盛^りの若い頃とは違^って、体力的に無理^が利^かな^い仕事^量にな^ってい^れば、す^でに「中年期」を過^ぎたこと^にな^りま^す。つまり「晩年期」に入^ってい^ます。実質^的なほう^を重^視して、当^ては^めて^くだ^さい。

政治家^の場合^は判断^しに^くい^と思^いま^すが、長老^議員^とい^われた^ら「晩年期」^です。

〔たとえば〕小泉純一郎^氏は〔2008-9-25〕この日^に衆議院^議員^に立候補^しない^意向^を明^らかに^しま^した。

〔2008-9-25〕以^降は「晩年期」に入^った^わけ^です。

さっこん
昨今は平均年齢が長いので、〔60歳〕では老人と考えないような時代になってきています。

もう少し多めの年代に考えないといけないでしょう。年齢的には〔65歳・66歳〕くらいまでを「中年期」と考えてよいかとおもいます。

その区切りはピタッと決まるわけではありません。

何年かの歳月をかけて、「中年期」から「晩年期」へと移行していくわけです。

それゆえ〔65歳・66歳〕くらいまでの幅があると考えておくとよいでしょう。

一生を「初年期」「中年期」「晩年期」の3つに区分して、十大主星と十二大従星のなんの星が、どの場所に出ているのかを見ていくのです。

「初年期の場所にはどの星が載っているのか……」

「中年期の場所にはどの星が載っているのか……」

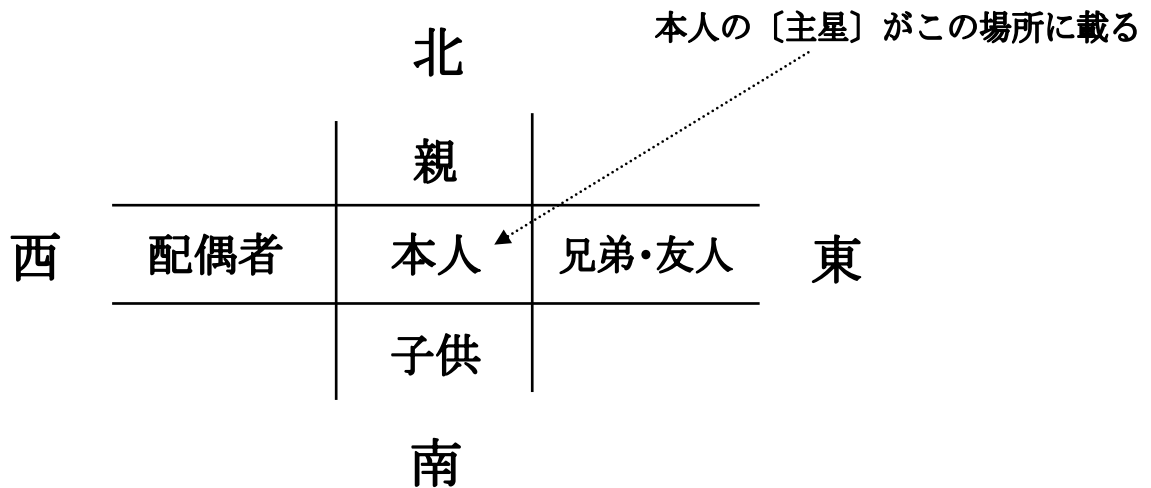
「晩年期の場所にはどの星が載っているのか……」

十大主星が載っている場所は……各人それぞれ異なります。

それを観て占いをしていくことになります。

- 🔍 人体図を見るときに『人物の場所』があります。
どなたの人体図でも『人物の場所』は存在します。

宿命（2）人物の場所



人物の場所は確定しています。替^かえることはできません。

- ❖ 人体図の中心は、自分（本人）の星が載ります。

しゅせい
〔主星〕は『本人の場所』です。

- ❖ 自分より上の場所（北）は、自分より目上の人たちが載^のります。

目上の人たちのなかで、代表的な人物は〔親〕です。

（北）は『親の場所』と考えます。

❖ 自分よりも下の場所は（南）です。

自分より目下の人たち—— 部下とか後輩とかもそうですが、自分より目下の人たちのなかで、自分の人生に最も関わりが深くなると思える人物は〔子供〕ですから、まずは『子供の場所』と考えてください。

『上は親の場所』『真ん中は本人』『下は子供の場所』です。

❖ 本人と横に並ぶ同列の場所は、本人と同世代の人物が入ります。（対等で上下関係がない）という意味があります。

向かって左側（西）は『配偶者の場所』です。

向かって右側（東）は配偶者以外で自分と同列の人物ということで『兄弟・友人の場所』です。

このように場所と人物配置は決まっています。

☞ 人物の占いをするとき、『人物の場所』は必ず必要になります。この場所の配置はぜひ覚えておいてください。

勉強しているうちに、自然に覚えるともいえますが、占うとき—— 特に人間関係の占いするときには、必ず人物の場所をつかうようになります。

それら人物の場所に『十大主星』^{じゅうだいしゅせい}が載っています。
宿命を算出してわかるように、各人の星はちがいます
〔たとえば〕配偶者の場所に車騎星^{しゃきせい}が載っているの
であれば、車騎星の質（行動力）のある配偶者と縁^{えん}が
できます。とかの意味にもなります。

実際に占うときは、ほかの場所に載っている星との
連関^{れんかん}がありますから、それらの星をみて、星のもつ意
味合いを含めて、詳細に考えてゆくことになります。

参考：連関〔かかわりあってつながること〕

☞ 人体図・本人の場所に載るのは〔主星〕^{しゅせい}です。

『十大主星』のどれかが〔主星〕として中央に載って
います。

『十大主星』はそれぞれ独自の質があります。

〔主星〕として、龍高星^{りゅうこうせい}が載っていれば、（外国の星）
（離別放浪）（育ての親）というように、いくつかの意味
と、龍高星がもつ五行・水性の質、智恵の質を有して
いますから、その人物の性格などを観ることもできる
わけです。なぜなら〔主星〕は自分の本質を意味する

からです。

『十大主星』はそれぞれ独自の資質を有しています。

⇒ 『人物の場所』場所については、いくつかの考え方があります。

どなたでも人間関係は自分が中心で成り立っていると考えています。

どなたでも本人自身が中心です。

〔たとえば〕秋子^{あきこ}さんが自分の両親を考えたときに、「この人が私のお母さん」「この人が私のお父さん」と思い浮かべるはずです。

その2人を「お父さん」「お母さん」と呼べる立場というのは、秋子さんから両親を見た場合だけのはずです。

秋子さんにとっては「お父さん」「お母さん」であっても、他人^{たにん}から2人を見たら、お父さんでも、お母さんでもないわけです。

秋子さんの「お父さん」という人物を他人^{たにん}から見たときに、「お父さん」という人物は誰かの子供でもあるし、誰かの夫にもなるし、誰かの友達、あるいは誰かの兄弟とかであったりするわけです。

秋子さんが「お父さん」と呼んでいる男性は、あくまでも秋子さん自身を中心にして、その人物を見たとき、考えたときに、その男性は「お父さん」になります。

〔たとえば〕 ㊶という人物の子供が㊷だとすれば——
㊷が成人した大人であっても、㊶は㊷を自分の子供という目線で見ます。

㊶にとって、自分の子供㊷という人物は、あくまでも
㊶から見た場合は自分の子供ですが、他人^{ほか}から見たときには、㊷という人物は子供ではなくて、年配の大人ということもあるわけです。

他人^{ほか}から見ると、㊷は年配の大人であり、誰かの上司かも知れないし、誰かの夫とか、さまざまな立場が㊷にはあるはずです。

それなのに、㊶から眺^{なが}めれば、㊷は自分の子供ですから、自分の子供という目線で見ってしまうのです。

〔たとえば〕 ㊸女性と㊹男性が結婚して夫婦であれば
㊸女性の夫は㊹男性です。当然㊸女性は（自分の夫）という意識で、㊹男性に接するわけです。

このように……どの人でも自分を中心に据^すえて、物事を考えます。どなたも知らず知らずのうちに、自分を中心にして物事を考えているはずです。

〔たとえば〕「あの人は善^よい人よ」とか「あの人は少し問題がある」と思ったり、言ったりしますが……、「あの人は善^よい人よ」と言ったとき、それはあくまでも自分から見たら「善^よい人」に見えるだけであって、他人^{ほか}から言わせたら、その人物が「善^よい人」とは限らないわけです。

「あああの人っ、顔も見たくないし、声も悪い」と、言い張るかも知れません。

あるいは皆さんが小学生位^位のときに、年齢〔20歳位〕の人を見たら、すごく大人に見えたとおもえます。でも、自分が〔40代半ば〕の人間になってから——自分より年下の〔20歳位〕の人を見たときに、なんとなく、その姿が幼く見えてしまうこともあるわけです。その〔20歳位〕の人が未熟^{みじゆく}に見えるというのは、あくまで〔40代半ば〕の自分から見てのことです。

これも自分を中心に据^すえて、その人物を見たときに、未熟者に見えるというだけのことです。

（この人は若い）（あの人って見かけより年嵩^{としかさ}よ）とか思い巡^{めぐ}らすのは、自分を中心にしているからです。

ここで申しあげたいのは……どなたも自分を中心にして自分なりの見方、あるいは価値観を基準にして物事を考えているのでは……ということなのです。

自分は自己中心的に物事を考えているけど〔他人^{ほか}の誰でも自分を中心にして物事を考えている〕ということを知っていれば、大局^{たいきよくてき}的に物事を考え・判断する人間となり、自分勝手な人にはならないと考えられます。

自分に限らず……他人^{たにん}も自分中心に物事を考えている。

このことを知っていれば、自己中心的な人物にはならないでしょう。

という話なのです。

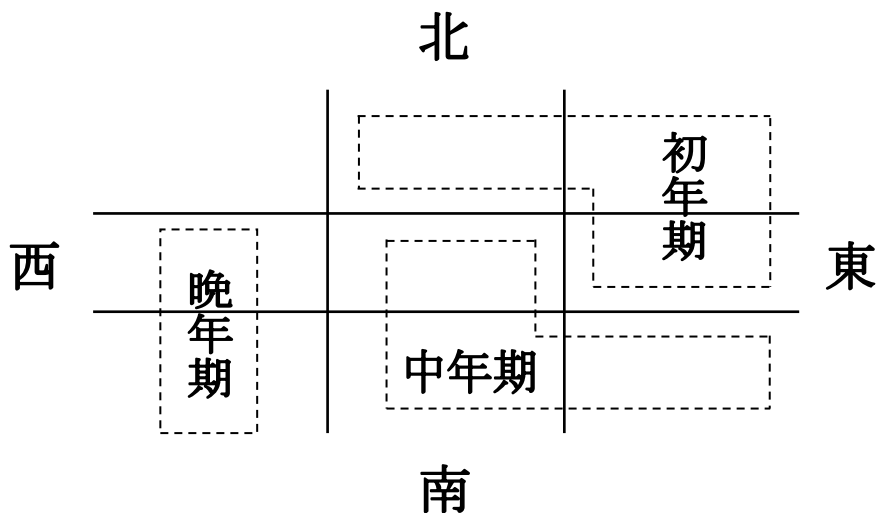
参考：大局的〔大きな立場から事実を判断したり、それに対して行動するさま〕

☞ 自己中心的な人は、まわりからも、社会からも孤立してしまいます。

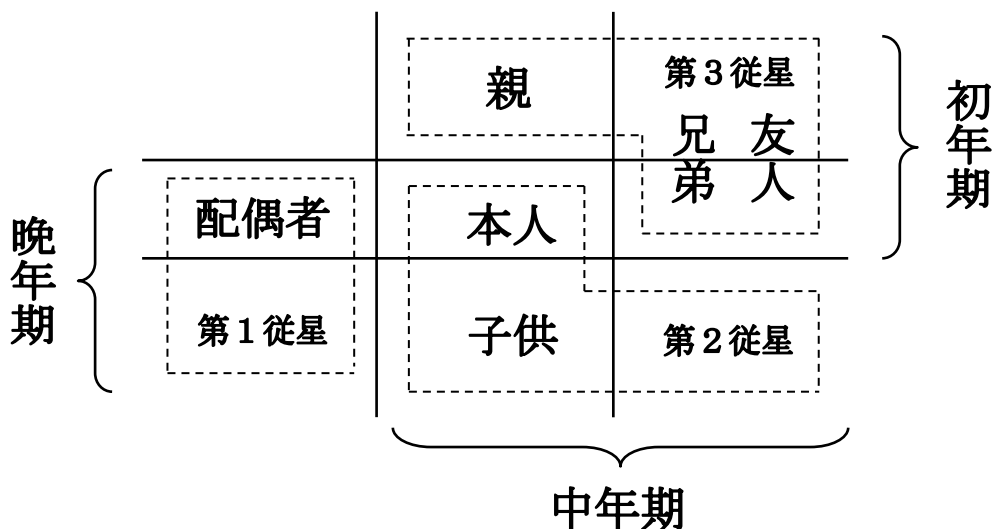
人体図をみて、自己中心的な人なのかどうかを判別する方法があります。(うへのクラスで学びます)

宿命 (3) 三分法

宿命 (1) とおなじ図式です



宿命 (4) 三分法 人物の場所を書き加えました。



宿命（4）三分法

「初年期の場所」 親の場所、兄弟・友人が入ります。

「中年期」 本人の場所と子供の場所が入ります。

「晩年期」 配偶者の場所が入ります。

⇒ 十大主星には各星がもつ質の意味合いがあります。人体図に十大主星は5星しか載りません。それらの星を消化する（つかう）ことで宿命が生きてきます。星は生きています。つかわなければ星は腐りますし、運勢は下降します。特に主星は大切です。

〔たとえば〕 人体図の親の場所は「初年期」です。

親の場所〔第四命星〕に禄存星があれば、「やさしい親と縁えにしがある初年期です」という話もあるでしょうし、禄存星は財星ざいせいの意味もありますから「父親が商売人ともいえますし、親に財産がある」と考えることもできるわけです。

鑑定は……お客様がお知りになりたい質問の内容に即そくして、人体図に載っている星がもつ意味合いをつかって、お客様のご要望にお応えするわけです。

親の場所〔第四命星〕に禄存星ではなくて、ほかの星が載^のっているだけでも、「初年期」は親との縁^{えん}が深い時代です。それは「初年期」が親の場所だからです。

加えて「初年期」は兄弟・友人とも縁が深い時代です。なぜなら〔第三命星〕は兄弟・友人の場所だからです。

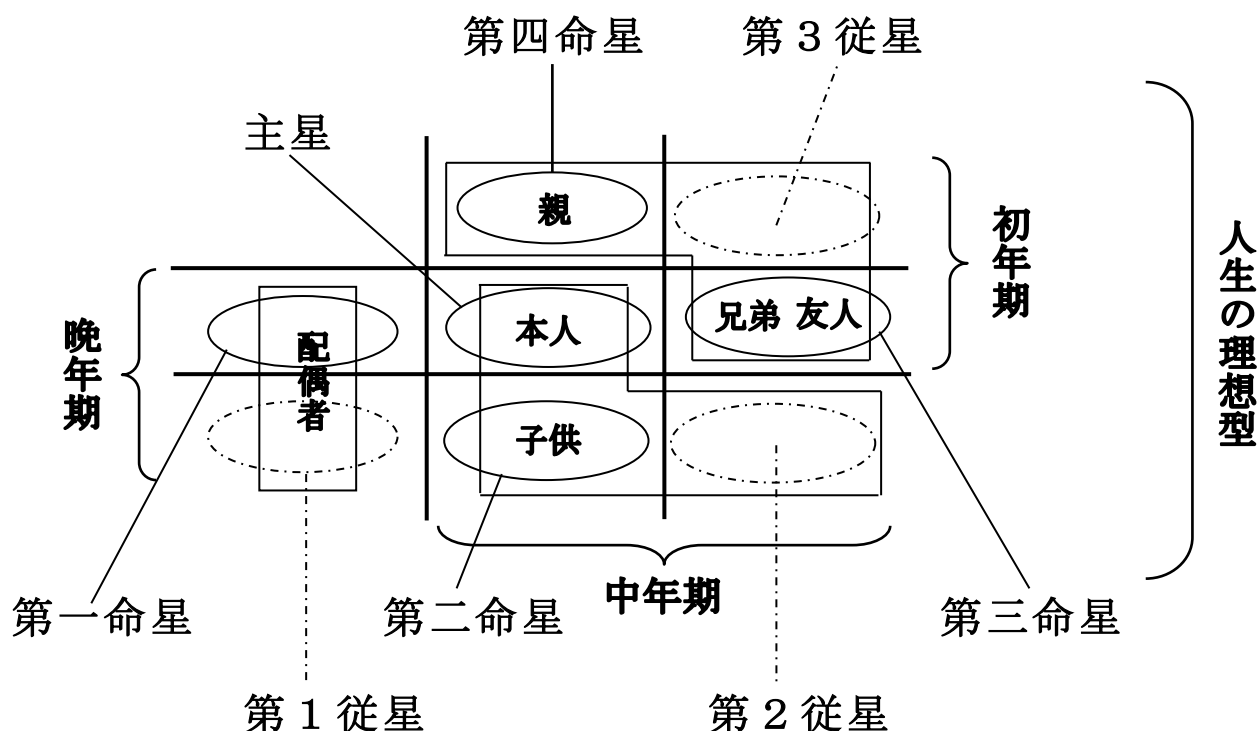
実際にそうですよね。兄弟のいる人にとって、一生のうちで兄弟と縁が一番深い時代は初年期のはずです。大人になると、兄弟とは別々に家庭をもちますから、家族では無くなって、親戚^{しんせき}になります。

友人もそうです。

子供の頃は毎日友達と一緒に遊んだりしたはずですが。しかし、大人になってからも、毎日、その頃の友達と会っているという人はいないでしょう。

そのように考えると **宿命（3）三分法** **宿命（4）三分法** の型^{かたち}はどの人にも共通しています。その意味で—— **宿命（5）三分法** は算命学で考える理想型といえます。

宿命（5）三分法



「初年期」『親・兄弟と縁がある時代』です。

そして、兄弟や友人との縁も篤^{あつ}くなる時代です。
 実際そのようになる人が多いとおもいます。

理想型は「りそうがたそうなることが望ましい」という意味です。

「初年期」の〔第三命星〕は兄弟・友人の場所です。
 初年期に自分の兄弟はいなくても、友達^{ともだち}は存在するでしょう。もし「初年期」に兄弟はいない、実際に友達もいないという環境で育つと、それだけで自分の宿命

から外れてしまい、宿命が生きて来なくなります。
兄弟はいなくても、友達はあるはずです。

「初年期」の〔第四命星〕は親の場所ですから、本当に
親がいない場合は、宿命が生きて来なくなります。
両親が揃っていなくても、片親でもいればよいです。
☞『いない』というのは、その人物の存在が無いということ
です。親がいないというのは「両親の存在がまったく無い」
ということです。

実の親がいなくても「養父母がいれば」育ての親です
から、それでもよいのです。

幼少のとき、両親が他界したということもあるわけです。

「兄弟が育ててくれました」それでもよいのです。

孤児院で育った場合、親はいないでしょう。

そうだとすれば、それだけで人生の理想型から外れて
しまいます。宿命が生きてこなくなります。

普通の家庭環境とくらべると、孤児院で育つ場合は、

（個人差はありますが）非常に難しい部分があると考え
ています。

👁️ 両親がそろった家庭で育っても—— なにか^{よういん}要因が存在（なにかがあること）して、異常性の発揮につながって犯罪者になる人もいますから、一概にはいえません。

参考：要因〔事物・事件が成立または発現するとき、直接にその原因または条件となる要素〕

「中年期」『本人と子供の関係』です。

親・兄弟は^{はず}外れます。なぜかといえ「中年期」になると、親兄弟を頼らずに、本人の努力・チカラで^い生きて行きなさい。という意味合いがあるからです。

それができていなければ、その人物の宿命は^い生きてこなくなります。

「中年期」に入っても、親・兄弟を頼って^い生きている人がいたら、それだけで宿命は伸びません。

中年期は本人が中心にならなくてはいけないのです。

子供が産まれて、子供との関係が構築されます。

ふつうは中年期に子供との縁が1番深くなるはずで

す。子供を育てていく時代です。

「晩年期」『配偶者』が来ます。

この型は『年を取ってから結婚しなさい』ということではありません。

人生の最後まで付き合う人は『配偶者』です。という意味です。

宿命（5）三分法 「初年期」「中年期」「晩年期」の人体図には、これまでのべた意味合いがあります。

そのこと考えますと、理想型の人生を送れる人のほうが少ないかもしれません。

そうしますと……子供がいない人もおられます。

配偶者がいない人もおられます。

あるいは、配偶者はいましたけど離婚しましたとか、他界しました。という話しもあるわけです。

そのような場合（どのように観たらよいのでしょうか……）
（どうしたらよいのでしょうか……）ということになります。

〔たとえば〕山田さんという既婚の女性がいます。

人体図の話しに限って話しを進めます。山田さんの〔第二命星〕

は子供の場所です。山田さんに女の子が産まれて——
『夏子』と命名しました。山田さんの〔第二命星〕子供の場所に夏子ちゃんが入りましたから、空き部屋ではなくなって人体図は満足したわけです。

陽占の宿命（人体図）は満足したので、山田さんの話しは終了です。

☞ 子供がいなければ〔第二命星〕の場所は満たされていませんから空き部屋です。

子供がいない場合はどうすればよいのでしょうか。となるわけです。

そこで、つぎのように考えて頂きたいのです。

人体図の〔第二命星〕子供の場所に、必ず『十大主星』の星が載っています。

子供がいない人は、人体図の〔第二命星〕に載っている星をつかうことになります。

「十大主星」のどの星が載っているのかは、人それぞれですが、子供の場所〔第二命星〕に載っている星の意味合いをつかうことになります。

〔たとえば〕子供の場所に玉堂星ぎょくどうせいが載っていれば、玉堂星は母親の星ですから『母親との縁を深くすればよいです』とも

いえます。(すでに母親が他界しているのであれば……)

玉堂星は知恵の星ですから、その意味合いをつかって『なにかを学ぶとよいです』ともいえるわけです。

つまり、子供の場所に載っている星の質をつかいます。

本来、第二命星は子供の場所ですけど、実際に子供が

いなければ、子供の代わり^かに、その場所に載っている星をつかって消化^{しょうか}しなさい。いうことになります。

それゆえ〔第二命星〕にでている星を、特^{とく}につかってその星の意味を消化して頂きたいのです。

△ 「消化」という意味……。

私たちは食物から栄養を摂取して、健康を維持しています。それとおなじように「食物＝星」と考えるとよいでしょう。

つまり、星を消化するというのは星をつかうことです。

食べ物をよく噛んで味わうのとおなじように、その星がもつ意味合いをよく考えてつかうことです。星は使わないと腐ります。

それゆえ、自分がよりよく人生を生きていくための栄養素として、星の意味合いをつかって活用します。それを星の消化といいます。

ほかによりよい表現があれば教えてください。よろしくどうぞ。著者

〔たとえば〕 子供の場所〔第二命星〕に石門星があるとすれば、石門星のもつ意味合いを消化するのです。

石門星は兄弟・友人の星ですから『それらの人物との縁^{えん}を深くして生きてゆきなさい』そうすれば宿命に適応しますよ。という話しにもなります。

この話しは〔第二命星〕子供の場所に石門星が載^のっていることだけに焦点を絞って話しを進めていますが、実際に人体図を観るときは、ほかの場所にある4つの星も連関^{れんかん}してきます。連関〔かかわりあってつながること〕

それゆえ占うときは、ただ単^{たん}に「兄弟・友人それらの人物との縁^{えん}を深くして生きてゆきなさい」という簡単な表現で終わらないことが多いです。

それはなぜ ➡

陽占の宿命（人体図） 宿命（6）

	第四命星	第3従星
第一命星	主星	第三命星
第1従星	石門星 第二命星	第2従星

子供の場所〔第二命星〕には、^{せきもんせい}石門星（兄弟・友人）の星が載っていますから、（兄弟・友人）と^{えん}縁があります。という話しになります。

参考：縁〔二つ以上のものが寄りついて、かかわりをもつ作用を意味する〕

ここでの話しは、人体図の〔第二命星〕子供の場所に石門星が載っている。そこに焦点をあてていますが、人体図のほかの場所に星が4つ載ります。

そして、陰占の宿命「干支」も関係してきます。

そのことを知っておいてください。

順次そのことも勉強します。

話しをもどします

⇒ 「晩年期」になって、配偶者がいない人の場合は、配偶者の場所〔第一命星〕に載っている星を特につかいます。

配偶者の場所には必ず『十大主星』が載っていますから、その星に相当する意味合いをつかうとよいのです。

〔たとえば〕人物ということであれば、宿命（7）男性には、〔第一命星〕の配偶者の場所に司禄星（妻の星）が載っています。しかし、男性に配偶者がいない場合は、司禄星をふつうの女性と考えて、女性の友達をつくるとかです。

それらの女性と親友のように交際すればよいのです。

司禄星を配偶者ではなくて、ふつうの女友達・女性と考える。

		宿命（7）男性
第一命星	第四命星	第3従星
司禄星	主星	第三命星
第1従星	第二命星	第2従星

☞ 女性の宿命で〔第一命星〕の場所は、結婚すれば、その女性の配偶者が座る場所（夫が座る場所）です。

女性が結婚すれば、結婚相手の男性は強制的に〔第一命星〕に座ることになります。それで（夫が座る場所）という意味があります。その場所を別名『夫座』^{ふざ}とといいます。

☞ 男性の宿命で〔第一命星〕の場所は、結婚すれば、男性の配偶者が座る場所（妻が座る場所）です。

男性が結婚すれば、結婚相手の女性は強制的に〔第一命星〕に座ることになります。それで（妻が座る場所）という意味があります。その場所を別名『妻座』^{さいざ}とといいます。

☞ そうしますと〔たとえば〕女性の宿命で、夫の場所〔第一命星〕に、牽牛星^{けんぎゅうせい}（夫の星）が載っているのに、その女性に夫がいない場合は、牽牛星を夫の星として見るのではなくて、ふつうの男性の星として考えます。

牽牛星は夫という意味がありますから、女性に夫がいれば、その女性にとって一番よいのです。しかし、夫がいないのなら、その男性を（異性の親友的存在）と考えればよいでしょう。

牽牛星を夫の星ではなく、男友達の星と位置づけるわけです。夫は性別でいえば男ですから、男性とのお付き合いを多くするとよいわけです。(さきほどの男性の話とおなじです)

お付き合いといっても、男性は趣味の仲間でも、稽古仲間でも、仕事仲間でもよいのです。そうすると幸せな晩年が送れます。という話になる場合もありますが、人体図に十大主星が5星載っていますから、それらの星も関係してきます。

それゆえ、ひとつの観方に限ったことではなくて、いろいろな観方の話しになるのがふつうです。

その観方は上のクラスに進むにつれて、勉強のなかに入ってきますから、ご理解いただけるようになります。

^{しよねんき}
「初年期」(親・兄弟・友人)と縁があります。

^{ちゅうねんき}
「中年期」家庭をもち(子供)と縁があります。

^{ばんねんき}
「晩年期」(配偶者)と縁があります。

晩年期は子供との縁よりも、配偶者との^{えにし}縁がいちばん深いと考えています。

^{かいろうどうけつ}
「偕老同穴」夫婦が最後まで^そ添いとげるという意味です。

□ 人体図三分法 (具体的にご説明します)

万物には「生・旺・死」「始め・中心・終わり」があります。

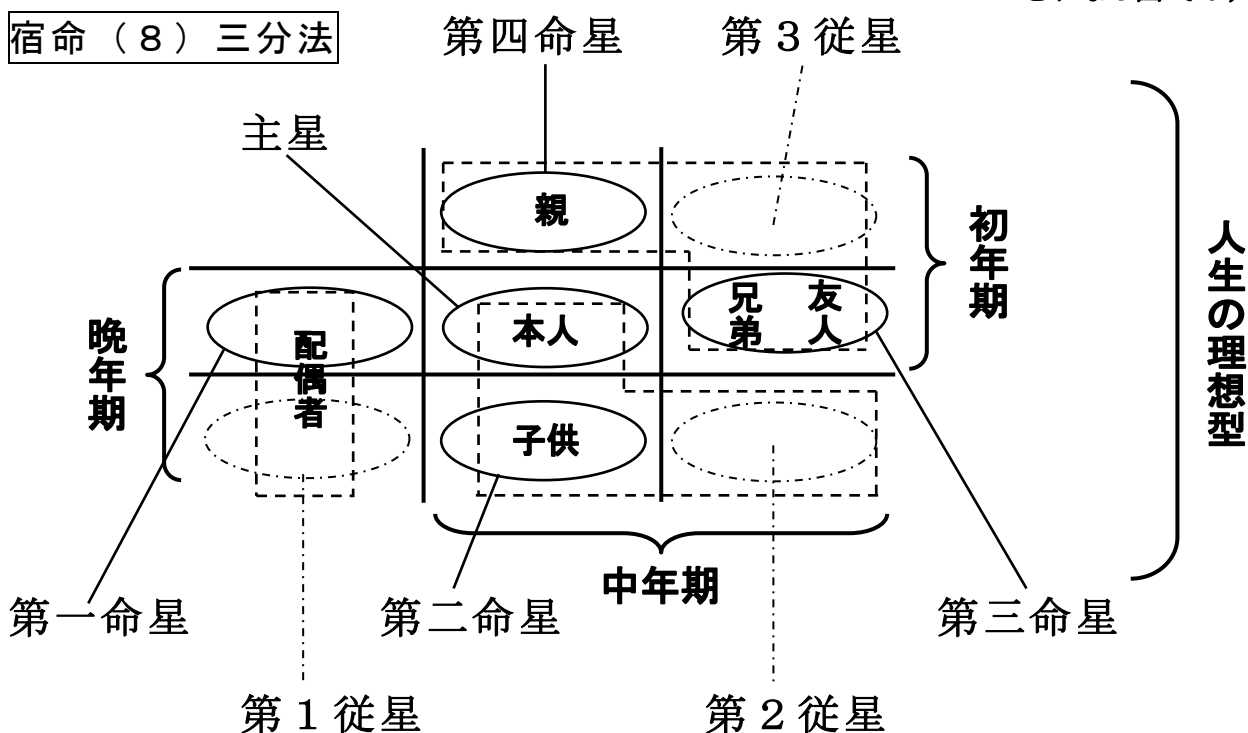
「自然界の法則」にあてはめて「初年期」「中年期」「晩年期」というふうに三区分して人体図に取り込んだわけです。

人体図には人物を配置できます。

- 〔主星 しゅせい〕 中央は自分自身の場所
- 〔第一命星 だいいちめいせい〕 配偶者の場所
- 〔第二命星 だいにめいせい〕 子供の場所
- 〔第三命星 だいさんめいせい〕 兄弟・友人の場所
- 〔第四命星 だいやんめいせい〕 親の場所

このようになっていきます

22ページとおなじ図式です。

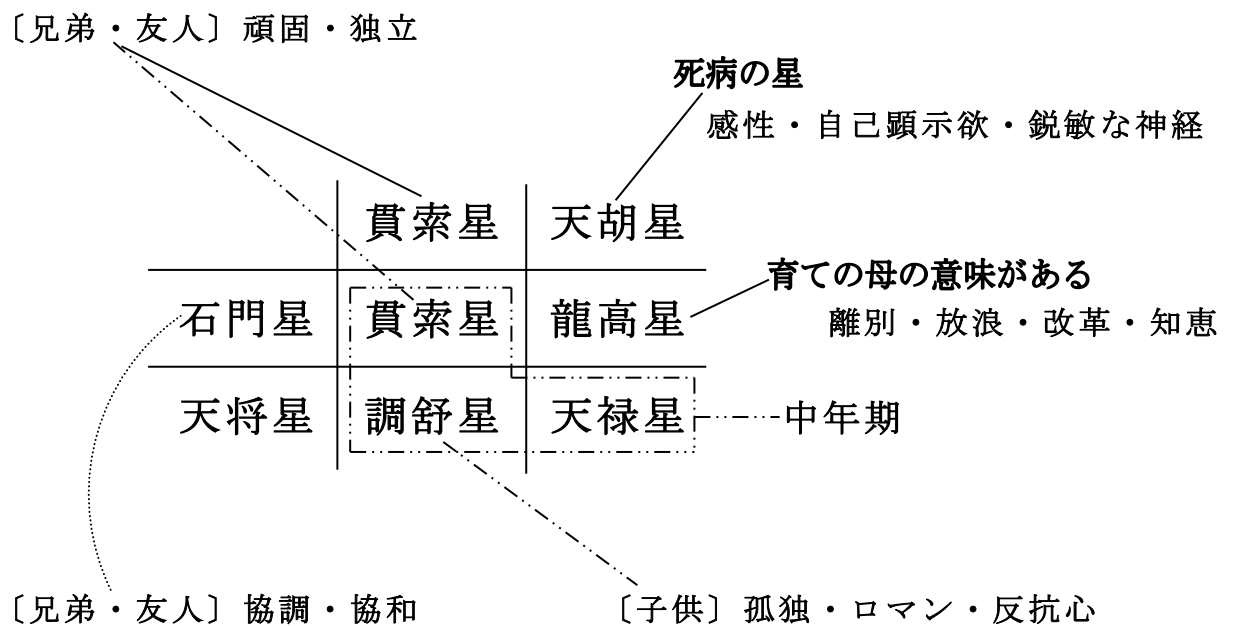


*ここからは「明仁上皇」の人体図を参考にして話しを進めます。

* ^{あきひとじょうこう}明仁上皇 1933(s8)-12-23 (平成天皇は7人兄弟です)

平成時代の天皇ですから以下 ⇒ 平成天皇と記載します。

人体図を三分法で見てゆきます。 宿命(9)平成天皇



「初年期」

^{だいやんめいせい}〔第四命星・貫索星〕 ^{だいさんめいせい}〔第三命星・龍高星〕 ^{だいさんじゅうせい}〔第3従星〕 ^{てんゆめせい}天胡星

「中年期」

^{しゅせい}〔主星・貫索星〕 ^{だいにめいせい}〔第二命星・調舒星〕 ^{だいにじゅうせい}〔第2従星〕 ^{てんろくせい}天禄星

「晩年期」 ^{だいいちめいせい}〔第一命星・石門星〕 ^{だいいちじゅうせい}〔第1従星〕 ^{てんしょうせい}天将星

このように三区分することができます。

☞ 平成天皇「初年期」人体図の星をみます。

^{だいよんめいせい} ^{かんさくせい}
〔第四命星〕は貫索星です。

貫索星の意味合いとして〔頑固・独立心・意思が強い〕とありました。

天胡星は精神性がつよく、直感力は鋭敏な感性をもちます。かなり頑固ですが、独立心を備えた子供時代であったと考えられます。

^{だいさんめいせい} ^{りゅうこうせい}
〔第三命星〕は龍高星です。

龍高星の意味合いとして〔改革・離別放浪・外国の星・未知のことに関心をもつ〕などあります。

龍高星の〔改革心・放浪〕は、どのようにでて来るのかといえは、おなじ場所に居たくないという気持ちです。

おなじではなく〔こうすればこうなるという改革心〕です。

〔変化・改革を求めて放浪する外国の星〕といわれます。

龍高星は人物では「育ての母（^{へんぼ}偏母）」の意味があります。

実母に代わる育ての親という意味は（年齢の離れた兄や姉に育てられた）でもよいです。

♣ 平成天皇（^{あきひと}明仁様）は^{めのと}乳母の^{ちち}乳で育てられたのです。

昭和天皇（^{ひろひと}裕仁様）の^{きさき}后・^{ながこうごう}良子皇后に育てられていないので
す。天皇家において「実母が子供を育てる」という事実は、

^{あきひとさま}明仁様と^{みちこさま}美智子様がご成婚されて、^{ひろのみや}浩宮様が誕生されてからの
ことです。それまでの天皇家には「実母が子供を育てる」
という歴史はなかったのです。

^{ごしょうごう}御称号（呼び名）は^{ひろのみや}浩宮様、^{れいわじだい}令和時代の^{なるひとてんのう}徳仁天皇です。

^{こうごう}皇后は^{まさこ}雅子様です。

【^{じゅうにだいじゅうせい}十二大従星】 算用数字で記載しました。

第三従星⇒第3従星

人体図の第3従星【^{てんゆめせい}天胡星】の時代は〔^{ろうれい}老齡で死ぬ一歩手前
の病人〕という意味がありました。 正式名称は（てんこせい）

【^{てんゆめせい}天胡星】感性が鋭い、直感力が鋭い、自己顕示欲が強い星
です。この時代は、死に直面する病人であり、^{ろうれい}老齡になって
^{むか}迎える死ですから、若い人という意味はありません。

若い人が〔^{ろうれい}死ぬ一歩手前の病人〕という意味ではありません。

【^{てんゆめせい}天胡星】と【^{てんどうせい}天堂星】の意味合いは異なります。

【^{てんどうせい}天堂星】の意味は第一線を^{しりぞ}退いた隠居の老人です。

☞ 平成天皇「中年期」人体図の星をみます。

〔主星〕貫索星は『独り』という意味があります。

意志がつよく独立心があって頑固です。

〔自分は自分〕という意識で、自分を押しだします。

人物でいえば〔兄弟・友人〕という意味があります。

兄弟・友人・子供との関係が密接であったといえます。

☞ 明仁親王（平成天皇）ご結婚は1959(s34)年4月10日です。

明仁様〔33歳〕 美智子様〔29歳〕です。

1960(s35)2月23日に誕生された浩宮様は、皇室において——
はじめて、美智子様の母乳ぼにゅうで育てられました。

明仁親王は皇室の伝統と皇族の反対を制し、ご自身のお手元
で、浩宮様を育てるお覚悟は「中年期」の〔主星〕貫索星が
もつ質の現れと推察できます。

だいにめいせい ちょうじよせい
〔第二命星〕の調舒星は孤独な星です。

貫索星の（^{ひと}独り）と 調舒星の（^{こどく}孤独）という質には共通する精神活動といえます。貫索星＝個人の星です。調舒星＝孤独の星です。

平成天皇は〔主星〕と〔第四命星〕に貫索星があります。

〔第二命星〕に調舒星があります。

貫索星と調舒星の頑固で孤独は、自分^{ひと}独り^{から}の殻に閉じこもる質を有しているといえます。他人の意見を素直に聞かないで「私の意見はこうだ……」という質をもっていると考えます。一生を通してその質はありますが、特に中年期になると強くなります。しかも「中年期」の従星は天禄星です。

それゆえ、先に申しあげたように、皇室の伝統を打ち破って浩宮様をお手元で育てることができたともいえるわけです。調舒星の人物は子供ですから、子供と縁が深い中年期です。

〔調舒星〕の人物は子供です。平成天皇は子供が3人いますので、子供との縁が^{えん}篤^{あつ}いといえますが、子供のことで悩んでいたのかも知れません。子供縁は篤いですが、3人のなかで、どの子と縁が深いのかわかりません。3人すべてに縁が深いこともあるでしょうけど、そうではないかもしれません。

参考：深い〔表面的ではなく精神的傾向が強い〕〔かかわり合い方が強い〕

第2従星の【天禄星】は現実的で逞しい星です。

天禄星は常識的であり、現実性が強い星で逞しくて頼り甲斐のある星です。温和で優しい星とはいえません。

他人から「ああしなさい。こうしなさい」そのように意見をされるのを嫌う「中年期」であったといえます。

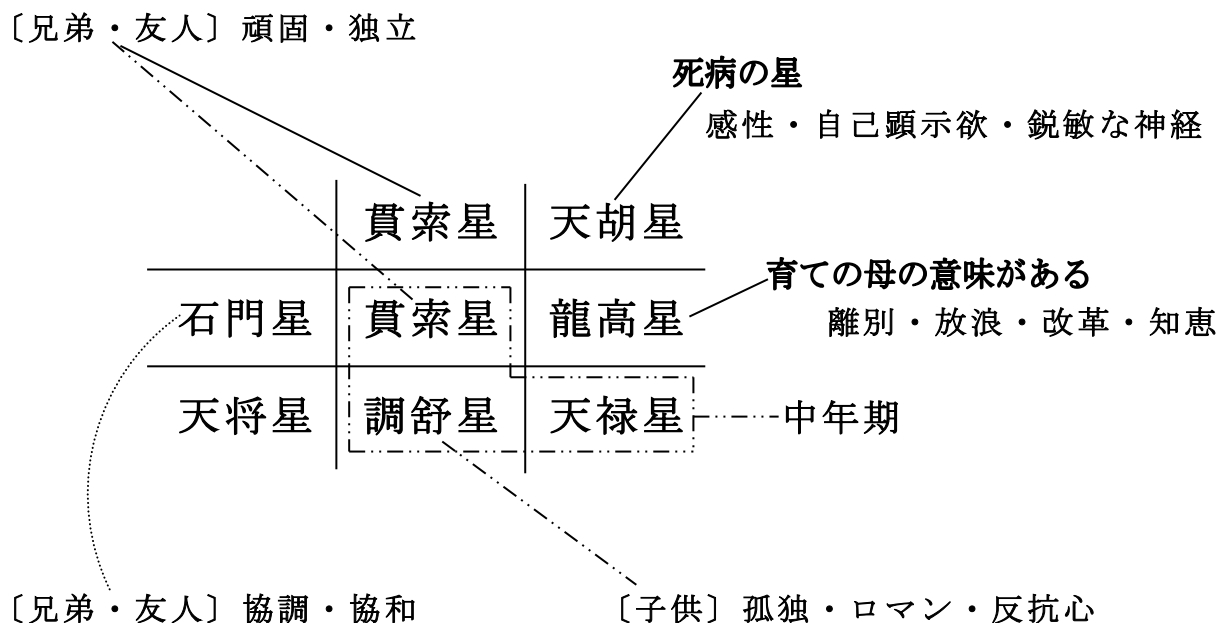
【天禄星】は壮年の星ですから、どのような人物と縁が深いのかといえば中年の年代の人たちが相当します。

あるいは、役目としては補佐役の人物です。

皇室のなかでは侍従・侍従長とかでしょう。

平成天皇の「初年期」「中年期」「晩年期」は、どのような人物と縁が深かったのか——そのことも問えるわけです。

宿命（10）平成天皇 33頁とおなじ図式です。



⇒ 平成天皇〔第二命星〕子供の場所に調舒星が載っていますから、子供との縁が篤^{あつ}いということでした。

〔調舒星〕の人物は子供です。平成天皇は子供が3人いますので、子供との縁が篤^{えん}いといえますが、子供のことで悩んでいたのかも知れません。

△ 「子供と縁が篤い・深い」 それについて付け加えます。

宿命（11）母親Aさん

	第四命星	第3従星	人体図は陽占の宿命です
第一命星	主星	第三命星	
第1従星	調舒星 第二命星	第2従星	

母親Aさん の人体図と仮定して話しを進めます。

なにかの縁との結びつきが強いと、その縁とのかかわりで、悩みも深くなります。〔たとえば〕子供と縁が篤ければ、子供のことで悩まされることもあるわけです。

参考：縁〔二つ以上のものが寄りついて、かかわりをもつ作用を意味する〕

参考：縁〔運命として定まっているめぐりあわせ〕

母親 A さんの陽占の宿命をみると、〔第二命星〕子供の場所に調舒星（子供の星）が載っていますから、人体図には「^{こどもえん}子供縁がある・子供と縁が深い」と書かれています。

子供との縁が篤いわけですから、その子が^{あくどう}悪童だとすれば、母親 A さんの悩みは^つ尽きません。^{えにし}縁の^{むす}結びつきが強いわけですから、母親が心に感じる悩みの程度も大きいのです。

ここで知っておいて頂きたい事柄があります——母親 A さんの人体図には「子供と縁が深い」とだけ書かれているのです。

（よい子）（わるい子）とか、人体図に書かれていません。

縁が深いから（よい子）だと——そのように解釈してはいけないのです。そのことを知っておいてください。

☞ ちなみに、母親の宿命に「子供と縁が深い」と書いてあれば、母親は子供との縁を深めようとするでしょう。

しかし、子供には子供自身の宿命があります。

子供の宿命をみると、「親と縁が無い」と書かれていることもあるのです。

子供の宿命に「親との縁が無い」と書かれていたとすれば、子供からすれば、『うるさい親だ、いちいち口を出して』と、

いうことにもなるわけです。そのように言えます。

それゆえ「縁^{えん}」についてだけ述べ^のれば「子供と縁が無いほうがよい」ということもあります。

縁が無ければ子供に煩^{わずら}わされない。という話しにもなります。

☞ 平成天皇の話にもどります。

平成天皇「初年期」の〔第三命星^{だいさんめいせい}〕は龍高星^{りゅうこうせい}です。

龍高星という編母^{へんぼ}（育ての母）と縁が深いと書いてあります。平成天皇は乳母^{めのと}の乳^{ちち}で育ったのです。

平成天皇は子供の頃に「自分には母が傍^{そば}にいない——という幼少期に悲しい思いをされたかも知れません。

美智子様とご結婚された明仁様は美智子様とお二人で浩宮様を育てるようになります。

ごいっしん
御一新・明治天皇からの皇室の伝統で始めてのことです。

美智子様は皇室内で手厳^{てきび}しい非難を受けたようです。

平成天皇には子供が3人います。子供と縁^{あつ}が篤いといえますので、子供のことで悩んでいたのかも知れません。子供縁は篤いのですが、3人の子供のなかで……

どの子と縁が深い・篤いのかわかりません。

3人すべてに縁が深い事柄もあるでしょうけど、そうではないかもしれません。

特にこの子とは縁があるという場合もあります。

☞ 人体図に（よい）（わるい）は出てきません。

陽占の宿命つまり人体図は性格です。

（よいのか）（わるいのか）は、陰占の宿命で観ます。

つまり、よい子供に恵まれるとかは陰占の世界です。

よい乳母であったのかどうかは陰占です。

全部がよいということは無いのです。

もし（全部がよい）とすれば（全部がわるい）ということとおなじことである。と算命学は考えています。

「^{よう}極^まれば^{いん}陰」 「^{いん}極^まれば^{よう}陽」 なのです。

ものすごく幸せだとすれば、ものすごく不幸なことがあります。本人は一生幸せかも知れません。

でも、その裏には、ものすごく不幸な人がいるわけです。

それは兄弟かも知れません。

なにごとも表が存在すれば、必ず、裏が存在します。

「ものすごく幸運でしたという人の存在」があれば、その裏には必ず、「ものすごく不幸な人の存在」があると考えてください。

算命学はそのような考え方をしていきます。

☞ 平成天皇「晩年期」人体図の星をみます。

「中年期」他人^{ひと}の意見を素直に聞かず「私の意見はこうだ」という質をもっています。と書きました。⇒37頁の上から8行目

「晩年期」〔第一命星^{だいいちめいせい}〕の石門星^{せきもんせい}は『協調・協和の星』です。人物は友人・兄弟です。

晩年期は協調性の星〔石門星〕がまわっていますので、人間性が丸くなってきて、他人^{ひと}の意見を聞き入れるようになります。

第1従星にある〔天将星〕と協調性が結びつきます。

天将星は石門星（協調・協和の星）と結びつきやすいのです。

必ず、とは言い切れませんが、人体図に天将星のある人は石門星もある。そういうことは多いです。

ここでの『協調性』は中年期になって、自分が主導権を取った協調性になります。

自分のところへ“皆集まって来い”とするリーダーシップ、そして協調性を発揮する組み合わせになります。

三分法による組み合わせが、石門星と弱星という場合もあります。従星が天将星の強星ではなく、石門星の従星が弱星の場合は、自分から相手に合わせてゆく協調性になります。 [弱星] 天胡星 4 天報星 3 天極星 2 天馳星 1

このことは天禄星 [強星]・天南星 [強星] と [弱星] の組み合わせでも考え方はおなじです。

[相手を自分に合わせようとする] } このちがいになります。
[自分が相手に合わせようとする]

〔たとえば〕石門星と天馳星の組み合わせの場合は、自分が相手に合わせようとする協調性になります。

ここでは天将星ですから“^{きぐらい}気位が^{たか}高い”という意味も加えます。

晩年期の平成天皇はとても気位が高い姿になります。

☞ [石門星] の人物は兄弟・友人ですから、平成天皇は「初年期」「中年期」「晩年期」の一生を^{とお}通して、兄弟・友人の星に^{かこ}囲まれています。

生まれた頃からの「初年期」は7人兄弟です。

それだけを見ても、すでに兄弟との縁が篤いのです。

実際のところはわかりませんが、友人ということでは天皇というお立場から、友人も^{たき}多岐に渡るでしょう。どのような人物と縁が深いのかといいますと、天将星は家長の星ですから、各界のトップとの縁が深いといえるわけです。それを長男という意味でもよいのです。

^{しょみん}庶民なら——長男あるいは経営者と縁が深くなるとか、職場の上司とか、地域の店主とかと範囲を広げて考えてください。

悪くいえば、物知り顔で差し出がましく^{えら}偉ぶるとか、生意気だともいえるわけです。

🔍 人体図をみるとき [主星] は自分自身です。

主星が1番の焦点になります。

平成天皇の〔主星〕は貫索星です。

貫索星の質は頑固で意地っ張りです。

意固地になるくらい、自分でこうと決めたらテコでもうごかない人です。

貫索星は〔主星〕のほかに、〔第四命星〕にも貫索星がありますから、その意味合いが強まります。

もし3つあれば、貫索星の質がもっと強まります。

それに加えて、貫索星と同星どうせい（おなじ星）ではないですが陰陽の石門星があります。

貫索星は守備本能（陽星） 石門星は守備本能（陰星）

その意味合いからして、人体図に守備本能の星が3つあることとなりますので、極めてきわ（非常に）守備本能が強いです。

このような人物に対して、なにか言うときに、攻撃的態度をとると、この人物は“守り”を堅固けんごにします。決して素直に“うん”といいません。

もし説得をしようと思うのであれば、この人物の同類として、おなじ世界に入り込むというやり方でないと無理といえます。

天皇ですから、上から目線での^い言^{よう}い様（話しよう）は当然といえますが、天皇の近くに仕える人たちは、かなり気をつかったことでしょう。

一般人であっても、このような質をもつ人物に対して、上から目線の言い様は絶対にダメです。

その人物は^{かい}貝のように、ピタッと閉ざします。それゆえ「人を観て法を説く」ことになります。

^{ちょうじょせい}調舒星と^{りゅうこうせい}龍高星については、すでに説明しましたのでよろしいでしょう。

平成天皇の特徴は貫索星にあります。

そこに石門星がもつ質の話を加えると、だいたいまとまります。

そして、最身強も特徴です。

* 美智子皇后 1934(s9)-10-20

美智子様は2019年（令和元年）5月1日から「上皇后^{じょうこうごう}」になりました。

宿命（12）美智子様

	貫索星	天印星
玉堂星	調舒星	調舒星
天恍星	貫索星	天印星

平成天皇を三分法の例題として、ご説明しましたが、あの方法でよいのです。

美智子様は大まかにご説明します。

☞ 性格で注目しなければならないのは〔主星〕です。

美智子様の主星は調舒星です。

調舒星は左手〔第三命星〕にもありますから、調舒星の質が強いです。地面に仰向けに寝て、両手を広げると左手は調舒星です。

貫索星も2つありますので、その意味合いも強いです。

調舒星と貫索星を比較しますと〔主星〕として載っている星のほうが、その意味合いは強くなる。と考えてよいです。

調舒星は〔孤独、ロマン、反抗心、感性〕という質がありますとお伝えしましたが、本質的に孤独で寂しがり屋の質をもちます。

調舒星を主星にもつ人体図は、心奥しんおうには悩みと葛藤が潜在していることが多いです。

それゆえ思い悩む人でもあるのです。

「二星相関変化法にせいそうかんへんかほう」にでてきましたが、美智子様には調舒星が2つあり、〔第一命星ぎょくどうせい〕に玉堂星があります。

この姿は（水→×火）の七殺ななさつで『水下の激突』と表現しました。とても気性の激しいところがあります。

その激しさは外にでてこないと見えませんが、内面の葛藤かつとうは非常に激しいです。

ストレスの溜まりやすい質と考えてよいですね。

『声が出なくなつた……』という報道もありました。

その大本おおもとは調舒星です。調舒星は伝達の星ですから、なにかを伝えたいとする星です。

その表現（伝達）は直接的ではなくて、間接的で婉曲えんきよくな伝え方をしますから、相手・まわりの人たちに伝わりにくいのです。そこは誤解が起こりやすい部分です。

そのとき『^{すいか}水下の^{げきとつ}激突』が起こると、心の内^{うち}において『せめぎ合い』の心理状態がうごきだします。

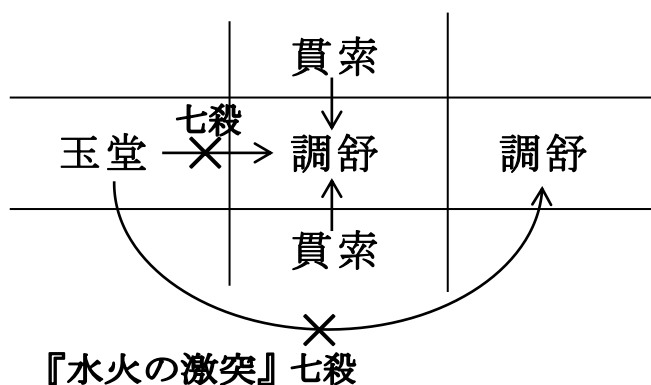
☞ では、どうしたら良いのでしょうか……。

『水火の激突』を和らげるためには、^{かんさくせい}貫索星を^{つうかんせい}通関星としてつかえばよいですね。貫索星は2つあります。

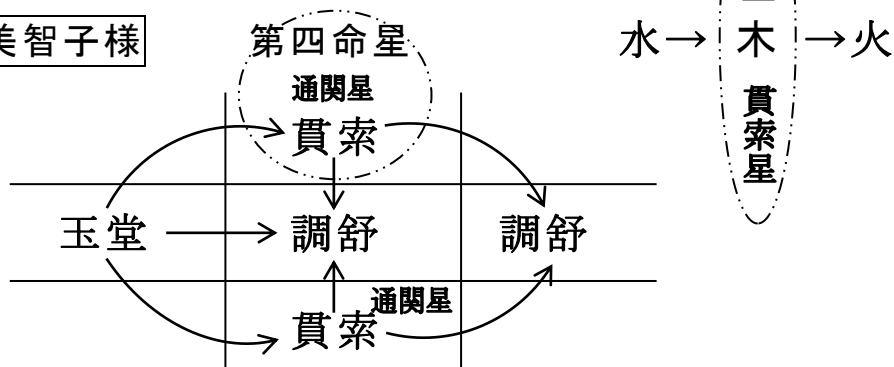
貫索星に人物を当てはめると兄弟・友人です。

それに^{そうおう}相応する人物が^{みぢか}身近にいて、自分が思いわずらうことを話すことができれば、ストレスが和らぎます。

宿命（13）美智子様・七殺



宿命（14）美智子様



彼女にストレスが溜まったとき、そのストレスを和らげるのは-----通関星の貫索星です。五行は木性です。

宿命（14）美智子様 ように貫索星をつかいます。

つまらない話でもよいし、愚痴ぐちでもよいのです。

そのような人達と話すことで、ストレスが緩和かんわされます。あるいは〔第四命星〕の親の場所をつかいます。

だいよんめいせい
〔第四命星〕親の場所の貫索星をつかうには、実際の母親をつかいますが、母親はすでに他界しています。

そこで〔第二命星〕は子供の場所ですから、子供を使ってもよいのですが……子供の問題でストレスが溜まったわけです。

美智子様の実母「正田富美子」日清製粉社長・正田英井三郎の妻。

1909(M42)年 9月 29日～1988(S63)年 5月 28日

当時の報道は『自分の発言したことと違う内容が記事に書かれたのがストレスになった』とのことですが……

実際は子供（浩宮様）の結婚問題で『雅子まさこさんを苛いじめている』とかの問題が報道されたことがあったわけです。

∞ 平成天皇は最身強の人体図で〔主星〕は貫索星しゅせい かんさくせいです。もう1つ〔第四命星〕に貫索星があります。

こういう人は『自分の意思を曲げない人』と表現すれば、体裁ていさいはよいですけど、わからず屋にもなりかねません。参考：体裁〔外から見た感じ〕〔世間体。外見。〕

よほどの苦勞さいみきょうをして、最身強の星が消化されているのであれば別です。そうであれば星が柔軟性をもちます。

天皇家の世嗣よつぎ・皇太子であったということは、現実面での苦勞なく育っています。

この人と結婚すると伴侶はんりょが非常に苦勞します。

美智子様はふつうの苦勞ではなくて、ものすごい苦勞をされたといえます。

平成天皇は天祿星・天将星の最身強ですから、忙しく動きまわることで、宿命は生き生きしてきます。

美智子様は天印星・天印星・天恍星です。

人体図は身中です。最身強に身中がついて行こうとすると、最身強に振りまわされてしまっって疲れます。

しかし、最身強の平成天皇が、身中の美智子様に合わせようとするれば、平成天皇は欲求不満を起こします。

最身強と身中では、エネルギーに大きな隔^{へだ}たりがある
2人の関係なのです。

〔たとえば〕外国訪問で、つぎから、つぎとなると、
美智子様は心身ともに疲れて弱ります。

「身強・身弱・身中」^{あいしょう}で相性を観ることもできます。
最身強と身中ですから、かなりエネルギーは違います
ので、一緒にいると美智様は振り回されます。

この部分は生き方が合いませんので、美智様は相当
に苦勞されたとおもえます。

☞ 『身強・身弱・身中』を5段階にわけます。

さいみきょう みきょう みちゆう みじゃく さいみじゃく
『最身強』 『身強』 『身中』 『身弱』 『最身弱』 です。

^{あいしょう}
相性として考えるときに、となり同志なら相性が良い
ほうに入ります。

参考：となり〔並び続いているもののうち、そのものがすぐ近くにある物〕

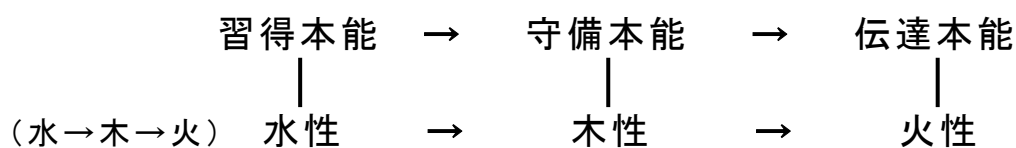
参考資料として【初年】42回目【身強・身弱・身中】

そこでより詳しくみます ➡ 宿命（15）五本能・五行

☞ 平成天皇と美智子様の人体図を比較します。

宿命（15）五本能・五行

お二人の人体図を^{ごほんのう}五本能と^{ごぎょう}五行で並べました。



「平成天皇」 龍高星 → 貫索星・貫索星・石門星 → 調舒星

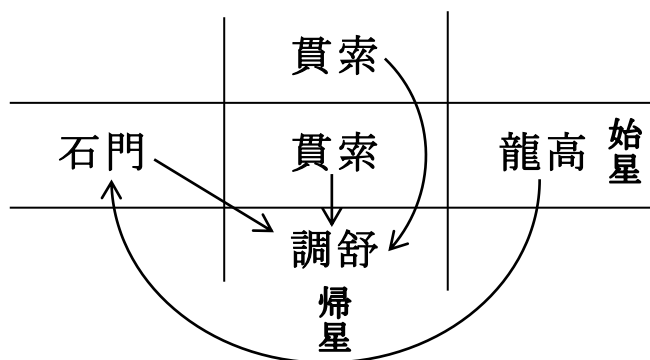
「美智子様」 玉堂星 → 貫索星・貫索星 → 調舒星・調舒星

宿命（16）平成天皇・人体図

平成天皇は^{りゅうこうせい}龍高星が1つあります。龍高星は^{すいせい}水性です。

^{かんさくせい}貫索星・^{せきもんせい}貫索星・^{もくせい}石門星の五行は木性で3つあります。

^{ちょうじょせい}調舒星は^{かせい}火性です。

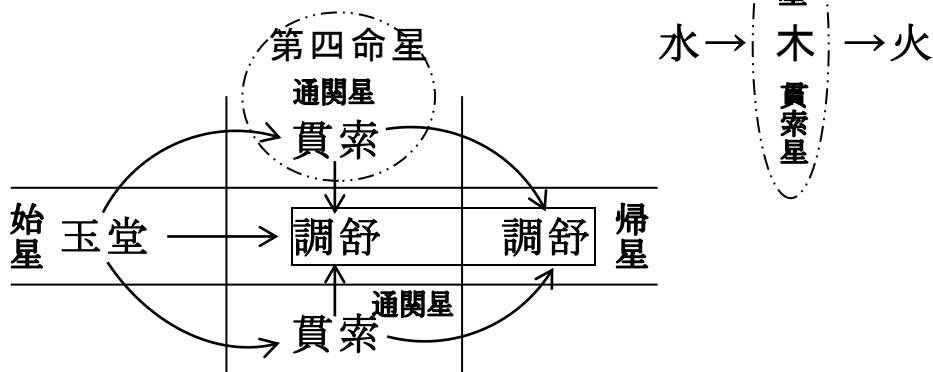


龍高星の水性から（水→木→火）と流れ、調舒星で止まっ

ています。龍高星は^{しせい}始星です。調舒星は^{きせい}帰星です。

^{しせい}始星は人体図のなかで、星の^{じゅんかん}循環がはじまる星です。

宿命（17）美智子様・人体図

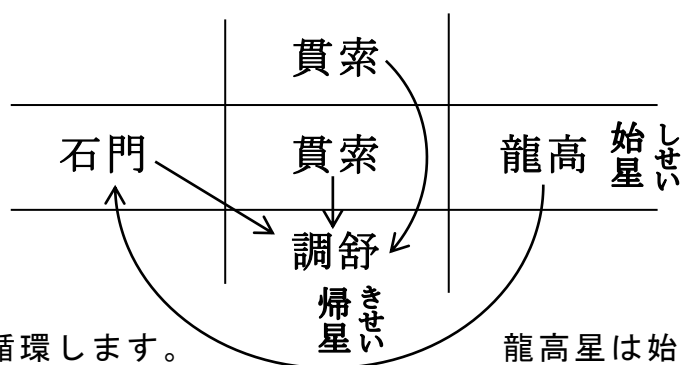


通関星をつかうと（水→木→火）循環します。玉堂星は始星。調舒星は帰星。

美智子様は通関星をつかえばですが……天皇とおなじ五行の水性ではじまって、おなじ五行の火性で終わります。

本能でいえば、習得本能ではじまって、伝達本能で終わります。

宿命（18）平成天皇



（水→木→火）循環します。

龍高星は始星。調舒星は帰星。

本能でいえば、守備本能で始まり、伝達本能で終わります。

このように並べて見ますと、お互いの本能がピッタリ

と一致しています。このような姿は相性がよいです。

「^{あいしょう}相性のよさ」というのは、いろいろありますが、この場合の相性のよさは「相手の考えがよくわかる」ということです。

おなじ本能をもっていますし、その流れもおなじです。相手の考えていることが、よく理解できるということになります。そういう意味の相性のよさです。

人体図が^{そうしょう}相生で循環して止まる場所の星を「^{きせい}帰星」といいますが、そこは人生の目的でもあるのです。

つまり、目的が一致します（目的を一致できます）。

お二人が生きてゆくときに、一致協力できるということとです。星の循環の^{あいしょう}相生はよいです。

ただし、「自分の考えが、相手にもわかる」「相手も自分が考えていることがわかる」……それが良いとはいえませんし、それが全てでもありません。

☞ 星の強さは、^{さいみきょう}最身強と^{みじゃく}身弱は合わないために苦労します。といたいましたが、星の循環ではピッタリ一致しています。

妻はふりまわされて疲れますが、思考回路はおなじですから「私の夫の性格はこうだ」という感覚になります。これが私の夫だという感覚です。

しかし、お互いの気持ちが変わり過ぎると、困る場合もあります。

それは運勢が別だからです。

“運勢は別”ということは、お互いに気が合っているも、別れなくてはならないような情^{じょうきょう}況がきたときにはこじれます。参考：こじれる〔ねじれて円滑にはいかない〕

「お二人の思考回路がおなじ」このような夫婦はなかなかいないのです。

重なっている箇所はあっても、始めから終わりまで、ピッタリ一致しているのは^{まれ}稀です。

相手の気持ちが手に取るようにわかりますので、離婚という事例はほとんど無いのですが、相手の気持ちがわかりすぎてしまうために、離婚ということもあり得るでしょう。

『妻の気持ちがわからない……』とあって、離婚する

人もいるでしょう。

『妻の気持ちがわかりすぎて嫌になる……』ということもあるでしょう。

⇒ 美智子様のように、人体図に『天印星』が2つある場合は、とても“^{こどもえん}子供縁”はうすいです。ふつうは^{いちにん}一人しか^う産まれません。

そののところはいろいろ噂があるようですが……。子供縁は薄いです。

よくできた子供・よい子が^う生まれたら、一人しか生まれないのです。

【初年】 47回目【人体図三分法】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 48回目【地時空間】です。